

文献挙示の『相関社会科学』方式（改訂版）

『相関社会科学』編集委員会

2023年4月

[一般原則]

- 文献は本文や注の中では個別に行わず、著者名のアルファベット順にしたがって文末で一括に配列する。（*ibid* 等の形式ではありません）
- 括弧を用いる場合は、すべて半角括弧()とする。

なお、以下の例の書式指定で_とは、半角スペースを示す。

[文献挙示の具体例]

[1] 邦文単行書

[例]

東條由紀彦 (1990) 『製糸同盟の女工登録制度：日本近代の変容と女工の「人格」』東京大学出版会。

橋本徹・大森彌(編)(1994) 『過疎地域のルネッサンス』ぎょうせい。

- 著者名_(出版年)_『書名』出版社. の順とする。（半角スペースを入れる箇所に注意、以下同じ）
- (編) (監)および(出版年)の部分に使用する(括弧)は、必ず半角にすること。
- 文献挙示の際には「、」「,」などは用いない。最後に「.」をつける。
- 著者名の姓と名の間にはスペースなどは入れない。
- 著者が複数いる場合は、「・」で区切って表す。著者が3名以上いる場合は、(他)などで適宜略記することも可。
- 編者・監修者などの場合は、(編)や(監)で表す。
- 書名の副題を示す場合は、「:」（全角）で区切って表す。

[2] 邦文論文

[例]

米谷匡史 (1994) 「丸山真男の日本批判」『現代思想』22(1): 136-161.

田村祐一郎 (1984) 「簡易保険の史的展開(1)」『所報』(生命保険文化研究所) 68: 1-39.

藤田隆則 (1995) 「古典音楽伝承の共同体：能における保存命令と変化の創出」福島真人 (編)『身体の構築学』ひつじ書房, 357-413.

- 雑誌論文の場合、著者名_(出版年)_「論文名」『誌名』巻(号):_ページ数. の順。
- 論文集の場合、著者名_(出版年)_「論文名」編者名_(編)『書名』出版社,_ページ数.
- 「所収」などは書かない。
- 「巻」「号」などは表さず、数字と括弧のみで示す。その後に、「:」（半角）をつけた上で所収ページ数を示す。
- 紀要などで、発行元が題名のみではわかりにくいと思われる場合は、書名のあとに括弧で発行元を示す。

- その他、基本的に邦文単行書の場合と同様に示す。

[3] 欧文単行書

[例]

FitzGerald, Frances (1986) *Cities on a Hill: A Journey through Contemporary Cultures*, New York: Simon and Schuster.

Clifford, James and George E. Marcus (ed.) (1986) *Writing Culture: The Poetics and Politics of Ethnography*, Berkeley and Los Angeles: University of California Press.

Kirp, David L. and Ronald Bayer (ed.) (1992) *AIDS in the Industrialized Democracies*, New Brunswick: Rutgers University Press.

Bellah, Robert N. et al. (1985) *Habits of the Heart*, Berkeley: University of California Press.

- **Family name, Given name (出版年) 書名(イタリックにする), 出版地: 出版社.** の順。
- 書名の後に「,」。最後に「.」をつける。
- 著者名は、姓、名の順で示す。著者が複数いる場合は、最初の著者のみ姓、名の順で示す。著者が3名以上いる場合は、et al. で略記することも可。
- 基本的に、著者名を示す際に Kirp, D.のようなファーストネームの省略はしない。
- 編者は(ed.)で示す。
- 書名は斜体で示す。
- 書名の副題を示す場合は、「:」（半角）で区切って表す。

[4] 欧文論文

[例]

Hofflander, Alfred E. (1966) “The Human Life Value: A Historical Perspective,” *Journal of Risk and Insurance*, 33(3): 381-391.

Bloch, Maurice (1992) “What Goes without Saying: The Conceptualization of Zafimaniry Society,” in Adam Kuper (ed.), *Conceptualizing Society*, London and New York: Routledge, 127-146.

- **Family name, Given name (出版年) 論文名, 雑誌名(イタリックにする), (巻)号: ページ数.** の順。
- 論文名は引用符で区切る。その際、最後のコンマを引用符の中に入れる。
- 単行書に所収の場合、「in」を付す。
- その他、基本的に欧文単行書の場合と同様に示す。

[5] 翻訳単行書

[例]

Gorer, Geoffrey (1965) *Death, Grief, and Mourning in Contemporary Britain*, London: Cresset Press.
=(1986) 宇都宮輝夫(訳)『死と悲しみの社会学』ヨルダン社。

- 欧文単行書の挙示のあとに、**_(発行年) 訳者姓名(訳)『翻訳書名』出版社.** の順。

[6] 翻訳論文

[例]

Connolly, William E. (1993) “Beyond Good and Evil: The Ethical Sensibility of Michel Foucault,” *Political Theory*, 21(3).=(1994) 杉田敦(訳)「善悪の彼岸：ミシェル・フーコーの倫理的感性」『思想』846:85-112.

- 欧文論文の挙示のあとに、**_(出版年) 訳者姓名(訳)「論文名」『誌名』(巻)号: ページ数**

の順。

- 原論文のページ数が不明の場合は省略して良い。

[引用方法]

文中でふれる場合、著者名[出版年] または 著者名[出版年：ページ数] という形で示す。日本語著者氏名と[] (半角括弧)の間はつめ、欧語ファミリーネームと[] (半角括弧)の間は半角あける。翻訳の場合は、二種類の発行年を「=」でつなぐ。著者名については、姓のみを示すことを基本とし、同一の姓のものがある場合に限り姓名の両方を表記する。

[例]

Gorer [1965=1986]によれば、...

藤田真理子[1988]は...と論じているが、他方藤田英典[1991]は...

⇒姓[出版年]本文...または Family name_[出版年]本文...とする。

- 引用して示す場合、前項の形式をそのまま括弧に入れた形で示す。ページ数を記載する場合、「:」(半角) とページ数の間を半角あける。

[例]

「...ではないだろうか」(藤田[1995: 231])。

...という議論を展開している(久野他[1994], Knuth [1992=1993: 13], 福島編[1995], Boorstin [1973: 177=1976: 206])。

⇒引用文(姓[出版年_ページ数], Family name_[出版年:_ページ数])。とする。

[Web 資料の引用について]

URL だけでなく、ダウンロードした日付も付記すること。

例： UNCED (United Nations Conference on Environment and Development), Agenda 21, A/CONF.151/26 (Vol. I & II), 1992, <http://www.un.org/esa/sustdev/documents/agenda21/> 2007年4月5日DL.

例： UN (United Nations), Monterrey Consensus, A/CONF.198/11.20, 2002, <<http://www.un.org/esa/ffd/aconf198-11.pdf>> <http://www.un.org/esa/ffd/aconf198-11.pdf> 2007年10月3日DL.

印刷物とはちがい、Web 資料は、最終稿提出後に内容が変更される場合がある。したがって、「執筆時点ではこうしたデータやテキストが載っていた」と主張できる形にする必要がある。それゆえ、(1)当該ページやファイル自体も自分で保存しておく。そうすれば、プロパティの更新日時などからダウンロードした日付も確認できる。その上で、(2)最終稿提出直前に、当該資料がネット上にあることを再度確認する。提出前に内容が変更された場合や、Google などのキャッシュにしか残っていない場合は、作成者が何らかの理由で廃棄したのだから、原則として使わない。論文にかぎらず、著作物では著作権関係の権利侵害になる可能性もある。

言説分析のデータとして不可欠等の理由でやむをえず使う場合には、ダウンロードの日付の後に、a)もし提出前に変更されたのであれば、「2008年1月10日時点で現存せず」といった形で、最終確認時点の状況を付記する。b)もしキャッシュからの再掲載であれば、自分がダウンロードした日付だけでなく、例えば「Googleで2007年3月3日01:58に保存された

<http://www.un.org/esa/sustdev/documents/agenda21/>のキャッシュより」と、キャッシュ元とその保存時点も書き加えておく。

なお、Web上に現存しない資料はもちろん、現存しても作成者が匿名の資料(例えば wikipedia の記載)も、学術的には信憑性に大きな疑問がある。それゆえ、本文中で参照・引用する際にも十分注意する必要がある。

以上